

## ②排卵誘発:自然周期法について

### 自然周期法(クロミッド-HMG)について

この方法は何も使わない完全自然周期と異なり、クロミッドと HMG を少量用います。基本的に排卵抑制剤は用いません。クロミッドの副作用(内膜が薄い等)がでた場合クロミッドの代わりにセキソビットやレトロゾールも用いる場合もあります。

#### 適応

- ①低反応群、②高齢者、③前回アンタゴニスト刺激反応不良群、④AF が少ない症例、⑤低 AMH 症例、  
⑥OHSS が予想される場合

#### 方法

Day1～3にエコー、ホルモン検査施行。

Day3 からクロミッドを2錠/日を 5 日間内服します。

Day7or8 に来院:卵胞計測。HMG 150IU を隔日投与開始。

卵胞径 16ミリ以上かつ E2 が 200pg/ml 以上なら(成熟卵胞の目安として E2 が 200pg/ml 以上)

23 時にスプレキュアのスプレーを施行し、その 34～35 時間後に採卵を行います。

採卵数は大体3～7 個程度となります。

#### メリット

- ①卵巣への負担が少ない
- ②注射のコストが余りかからない
- ③通院回数が減る
- ④卵巣過剰刺激症候群: OHSS のリスクが少ない
- ⑤卵巣腫大がないため新鮮胚移植を行いやすい
- ⑥基本的には毎月採卵が出来る
- ⑦卵の質が良い事が多い

#### デメリット

- ①採卵数が少ない⇒未熟卵の可能性がある
- ②採卵数が少ない⇒受精しない可能性がある
- ③採卵数が少ない⇒良好胚が出来ない可能性がある
- ④排卵抑制剤を使用しないので排卵の恐れがある
- ⑤採卵数が少ない⇒採卵回数が増える⇒負担が増える